



手をつなごう、子どもたちのころと

ACC News Letter

危機の子どもたち・希望

August 2008



(カンボジア プレイチュラブ小学校 2008)

ACC ニュースレター第 19 号 目次

ACC News Letter Vol. 19

- ・ セルビア スタディ・ツアー 報告
 - ・ カンボジア ともだち未来便 報告
 - ・ 「風の船」 in 島根 報告
 - ・ その他報告
-



セルビア スタディ・ツアー報告

ACCの活動が始まった2001年から7年を経て、今セルビアの社会事情は大きく変化してきています。旧ユーゴ紛争の記憶も鮮明で、99年のコソボ紛争からも日が浅かった活動当初、セルビアの姉妹団体「Zdravoda ste」(以下、ZDS)とACCのジョイント・プログラムは、その対象を難民に特化していました。本年2月、セルビア共和国自治州であったコソボの独立が国際社会の大勢に承認され、支援活動の現場としてのセルビアは、現在若干の複雑さを帯びてきました。

社会の復興を願い、戦争の影を出来るだけ払拭したい政府は、クロアチアやボスニアからの難民に国籍を与え、統計上の難民数は減少、それに伴い、難民センターの閉鎖も進んでいます。しかし、難民が生きる生活環境自体には改善の変化が見られないまま、復興の遅れから、一般社会でも貧困の問題が浮かんできました。停滞感は、難民のみならず、地元民の中にも広がっているのです。

そうした事情を踏まえ、ZDSとACCのプログラムも、難民に留まらず、内戦後長く続く社会の混乱や停滞の影響を受けて育つ地元の子どもたち、施設の子どもたちにも開かれたものである必要性が生まれました。このような変化の大きな理由には、社会事情ばかりでなく、子どもたちがその外面的なカテゴリーで括られることなく、全体として宥和していくことが、その健やかな発達に大切だということが挙げられます。

ACCのスタディ・ツアーでも、以前のように難民センターばかりではなく、難民、地元民の子どもたちが共に学ぶ学校、様々な家庭の事情から家族と離れて孤児院(日本の児童養護施設に相当)で暮らす子どもたちとの交流が、最近のプログラムには含まれることになりました。

昨年のスタディ・ツアーで、日本の児童養護施設とも交流できればというクルシェヴァツ市のイエフィミア孤児院からの願いに、東京都の児童養護施設、あけの星学園が応えてくれました。ACCでは、昨年晩秋、青年部のYoung Hopesがあけの星学園

を訪れ、コソボを逃れてきたセルビア系コソボ難民の事情や、難民の子どもたちも多く暮らすイエフィミアの話を園生の皆さんにさせて頂き、セルビアの厳しい状況で暮らす子どもたちへの絵手紙を作るワークショップを実施しました。豊かといわれる日本にも、こころを閉ざさざるを得ない環境で育つ子どもたちがいます。あけの星学園で暮らす子どもたちのほぼ全員が、このプログラムに参加して下さったことは、とても嬉しいことでした。

今年3月2日から9日までセルビア共和国で実施された、第7回ACCスタディ・ツアーでは、あけの星の子どもたちの作品を、イエフィミアに贈ることが大切なテーマの一つにもなりましたが、あけの星学園からは職員の方がスタディ・ツアーに参加して下さり、セルビアの難民や施設の子どもたちとのワークショップを共に体験することが出来ました。

政治的、経済的、社会的、そして文化・歴史背景が違う両国ですが、このような交流の積み重ねがそれぞれの国の子どもたちにとって、こころの豊かさに向かう小さな一歩になり、こころを開くさきがけになるようにと願ってやみません。



今回のツアーでは、ワークショップの手法を学ぶセッション、貧困問題が厳しいベオグラード近郊のチャルダック難民センターでのワークショップ、「おばあさんの手」プログラムが行われているヴルニャチカ・バニャ市での交歓もありました。難民のおばあさん達は、イエフィミアの子どもたちに手編みのクッションを贈りものとして携



えて、私たちと一緒に孤児院を訪問してくれました。

コソボ独立宣言を受け、ベオグラード市内の暴動もあった直後のセルビア行き、治安面での不安も抱えての訪問でしたが、ベオグラード市内に警官の姿がいつも以上に目立つ他は、静かな印象でした。しかし、その静けさは、もしかしたらセルビアの人々のところを映す沈黙だったようにも思われます。



貧困問題やコソボの独立宣言など、今年のセルビアは長年関わってきた ACC の私たちにとっても、一入こころ痛む思いでした。しかし、希望もありました。それは、姉妹団体 ZDS の若者グループです。92 年の ZDS 設立当時は心理的サポート・プログラムに、クロアチアやボスニアから逃れてきた幼い難民として参加していた彼らが時を経て、今度はコソボ難民や孤児院、学校の子どもたちへのワークショップ・プログラムにファシリテーターとして参加しているのです。彼らはまた、ZDS の難民へのインタビュー調査にも参加しています。難民として逃れてきた頃のこと、それは今でも出来ればふれないでおきたい思いがあると聞きました。しかし、忘れてしまっはいけないこと、人間としてしっかりと見据えておかなければいけないこととして、自分達で主体的に現在も難民生活を送る人々の実態調査を行いました。他者から護られる立場から脱却して、幼い子どもたちに少しでも健やかに成長できる場を提供しよう、今も厳しい生活を送る同じ難民から学びとったことを社会に発信しようとするその姿には、どんなに厳しい環境にあっても人間の気高さは簡単に失われるものではないこ

とを信じられる希望がありました。人間が本質的に持っている可能性への励ましでもありました。



例年のように、姉妹団体 ZDS の皆さまには全面的なご協力を頂きました。特に全行程を共にしてくれた山崎久さん、若者グループのスラジャさんには大変お世話になり、この紙面を借りましてあらためて厚く御礼を申し上げます。



最後に、ACC スタディ・ツアーに初参加され、新たな息吹を送って下さいました、あけの星学園元施設長の相良映子さん、職員に加藤孝浩さん、また国際協力分野への造詣も深い弁護士原若葉さんに、心より感謝申し上げます。

異文化との出会いは、様々なところの動きを私たちにもたらしてくれます。それは人間同士でも同じかもしれません。違う個性の国々、人々を受け入れていく数々のプロセスの中に、実は平和への道筋が見えてくるのではないかな。そんな願いをこめて、ACC では今後もスタディ・ツアーというプログラムを大切に参ります。

(松永 知恵子)



カンボジア ともだち未来便

2008年3月3日、私たちACCのメンバーは日本の皆さまの温かい心に乗せてカンボジア、コンポンシュプー州にあるプレイチュラプ小学校にともだち未来便を届けて参りました。現地に着くと既に子どもたちはお行儀よく並んで、私たちを大きな拍手で迎えてくれました。年齢は6歳～15歳くらいでしょうか、子どもたちは「これから何が起きるのだろうか」というような少しの緊張と期待とが入り混じった表情をしていたように思います。こちらから笑いかけると恥ずかしそうに笑顔返してくれる子もいました。

初めてカンボジアの小学校を訪れた私にとって生徒の皆さんの前に座り注目を浴びるのは少々緊張を伴うものでしたが、校長先生を始めとする職員の方々や村の人々、生徒の皆さんによる温かい歓迎の言葉や歌の披露により、笑顔が絶えることはありませんでした。こちらからもACCメンバー高橋による挨拶を始め、日本の邑智中学校の生徒の皆さんによる合唱を披露したり、高橋による日本舞踊を見て頂いたりしました。子どもたちの興味津々な瞳の輝きはとても印象的でした。



そして私たちの最大の任務であるともだち未来便の配布に際しては、私たちから一人一人に直接ポシットを手渡しました。両手を合わせてお礼を言う子、恥ずかしそうにはにかむ子、不思議そうに私を見つめる子、一人一人の顔をしっかりと見て、ポシットを作ってくださった皆さまのお気持

ちが届くように、渡しました。受け取った子どもたちの笑い声や嬉しそうな話声が、忙しく配布を続ける私の背後でだんだん大きくなっていき、最後はどの子も自分のポシットを握りしめてぬいぐるみを抱っこしたり、ハンドタオルを頭に乗せたりして笑い合っていました。ふと、「こんなふうに自分だけの、たった一つのプレゼントをもらえる機会は、この子たちにどれくらいあるのだろう」と思いました。

配布の後は、教室で日本の子どもたちによって作られた作品を前に、日本の子ども宛に自分の名前と絵を描いてもらいました。クレヨンで、子どもたちが思い思いに描く絵や文字はそれぞれに個性的で、生き生きとしており、経済的には貧しいこの地域ではあっても、子どもたちの心は豊かに育っていることを感じました。澄んだ瞳が本当に美しく、子どもたちの明るい未来を祈らずにはいられませんでした。日本の皆さまとカンボジアの皆さまの掛け橋となり、子どもたちの希望ある将来のために、との想いを込めた「ともだち未来便」というこのプロジェクトにふさわしい一日となったと思います。



私個人にとっても、本当に忘れがたい貴重な体験であり、また、今後活動が続けるにあたって大きな力をもらいました。ご協力頂いた支援者の方々に、心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。
(久米澤 咲季)



「風の船」 in 島根 *Young Hopes*

< 島根報告 >

7月11日（金）島根県美郷町立邑智中学校へ、行ってきました。今回で4度目となる訪問では、例年同様、平和について考えるレクチャーとワークショップの二部構成にて授業を行いました。今年度は、学校側のご協力により、事前学習が行われました。生徒代表として生徒会総務委員のメンバーが、①ACCについて、②セルビアについて、③カンボジアについて調査をし、調べた内容を模造紙にまとめ廊下に掲示したり、校内放送で紹介したりして下さいました。授業では、まず昨年度作成して頂いた作品をカンボジアへ届けた際の報告を、実際の映像や写真を用いて行いました。次に、コソボについての、歴史的背景から現在の独立問題についてレクチャーを行いました。今年起きたコソボ独立運動の為、より一層外部との接触を閉ざされてしまった人たちが居ること、ACCとしてそういった方たちへ今まで同様の支援を行うことが難しくなっているという現状を生徒のみなさんにも知って頂きたかったからです。複雑なコソボ問題について、多少難しい授業ではありましたが、生徒の皆さんは、真剣にACCメンバーの発表に耳を傾けていました。そのような閉鎖された環境に置かれた子どもたちに、もっと色々な世界が在るということを感じてもらう為に、日本紹介をしてはどうだろうということで、今回のワークショップでは、各学年別に「私たちの国」「私たちの町」「私たちの学校」というテーマの日本紹介の旗を作成しました。ACCの用意した大きな白い布に、ペンキや絵の具を使い、各学年オリジナリティあふれる作品を作して下さいました。



< 感想 >

ワークショップ終了後に、皆で目を瞑って今回の授業について少し考える時間がありました。そのとき私の頭の中に浮かんできたのは、セルビアで出会った子どもたち、カンボジアで出会った子どもたち、そして邑智中学校の皆さんの笑顔でした。私がACCの活動を続ける原動力は、活動に関わる人たちの笑顔です。その笑顔の為に私ができることがあるのであれば、小さなことでも続けていきたい、そう思います。今回ワークショップにて一緒に作品を作っているときの生徒の皆さんはとても素敵な笑顔を見せて下さいました。この皆さんの素敵な笑顔で作られた作品を、私たちはコソボの子どもたち、またはセルビアにいるコソボの子どもたちに必ず届けなければならないと思いました。授業の後「カンボジアに行ってみたいと思いました。」と言いに来てくれた生徒がいました。将来その子がカンボジアに本当に行くのかどうかは別として、行ってみたい、自分の目で見てみたいと思ってくれたこと、興味を持ってくれたことは、とても嬉しく素晴らしいことだと思いました。その気持ちが生まれてきたことに、私たちACCの活動が少しであれ関係しているのであれば、嬉しい限りです。最後に紙面上ではありますが、毎回ACCの活動へ多大なるご理解ご協力を頂けます、邑智中学校の先生方、生徒の皆さんに御礼申し上げます。どうもありがとうございました。





ほうこく・いろ・いろ

「ともだち未来便」が始まります

同封のご案内のように、本年度も「ともだち未来便」を実施致します。今回はタイ国境に隣接しているバンテアイミンチェイ州に、ACCの現地パートナーNGOであるCOFが数年前に建設した小学校での配布を予定しております。長年に亘る内戦の負の遺産を未だに背負っているこの国の子どもたちに、心をこめた「応援メッセージ」である「ともだち未来便」を届けるため、皆様の温かいご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

「チャリティ・フェア」

ACC恒例のチャリティ・フェアを6月8日(日)に開催いたしました。おかげさまで、今回も夏を先取りした涼しげなジュエリーやサンダル、カンボジアのかごバッグなどが好評で、40万円を超えるご協力をいただくことができましたことを、感謝とともにご報告させていただきます。今回は殊に早くからお越しくださる方も多く、手狭な会場のために混み合っご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。12月初旬開催予定の次回、比較的すいている午後の時間帯には、掘り出し物をじっくりと探して頂けるお楽しみもごございますので、お時間に余裕のある方はどうかゆっくりとお出かけ下さいませ。

これからも、ACCチャリティ・フェアをご愛顧頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

「ILBS(国際福祉協会)より助成金

昨年に引き続き、本年度も「おばあさんの手」に対し、ILBSより助成金を頂きました。この温かい継続的な支援は、コンボ難民の女性たちにとっても、大きな励みとなっております。関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

「さきちゃん英語教室」

Young Hopesが「風の船」プログラムを実施している養護施設にて、英語教室を行うという新たな取り組みを始めました。英会話を学びたいという養護施設の子どもの強い希望もあり、海外在住経験の有るメンバーが発案しました。英会話教室は月1回、発案者の久米澤と他のYoung Hopesメンバーが参加し、養護施設内にて行っています。6月に行われた初回では、職員の方々も積極的に参加して下さり、笑いのたえないとても楽しい授業になりました。これからも工夫を凝らしながら楽しい授業を続けていきたいと思っております。

ご協力をお待ち申し上げます

会員として、継続的な支援ネットワークにご参加ください。

個人会員	年会費	10,000	円
学生会員	年会費	2,000	円
子ども会員	年会費	1,000	円
法人会員	年会費	30,000	円

募金のご協力をお願いします。

随時、募金を承っています。

- ・ 書き損じはがき、未使用切手がございましたらお送りくださいますようお願い致します。

送り先

- 三菱東京UFJ銀行 恵比寿支店
普通預金口座番号 1610158
口座名 特定非営利活動法人
危機の子どもたち・希望
- 郵便振替
口座番号 180-0-69004
口座名 特定非営利活動法人
危機の子どもたち・希望

編集後記

カンボジアでは総選挙が実施され、日本からも監視団が派遣されました。政権の安定がACCの活動地域である貧しい地方農村部に、も恩恵をもたらすことを願ってやみません。
(高橋 喜美子)

特定非営利活動法人
ACC 危機の子どもたち・希望
〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿西 2-16-15-102
Tel/Fax 03-3496-7090
E-mail forhope@tkk.att.ne.jp